

No. 511【2022年7月1日配信】

軍用施設を利用して建設された高田中学校と荒川中学校の校舎 (担当:村上亜弥)

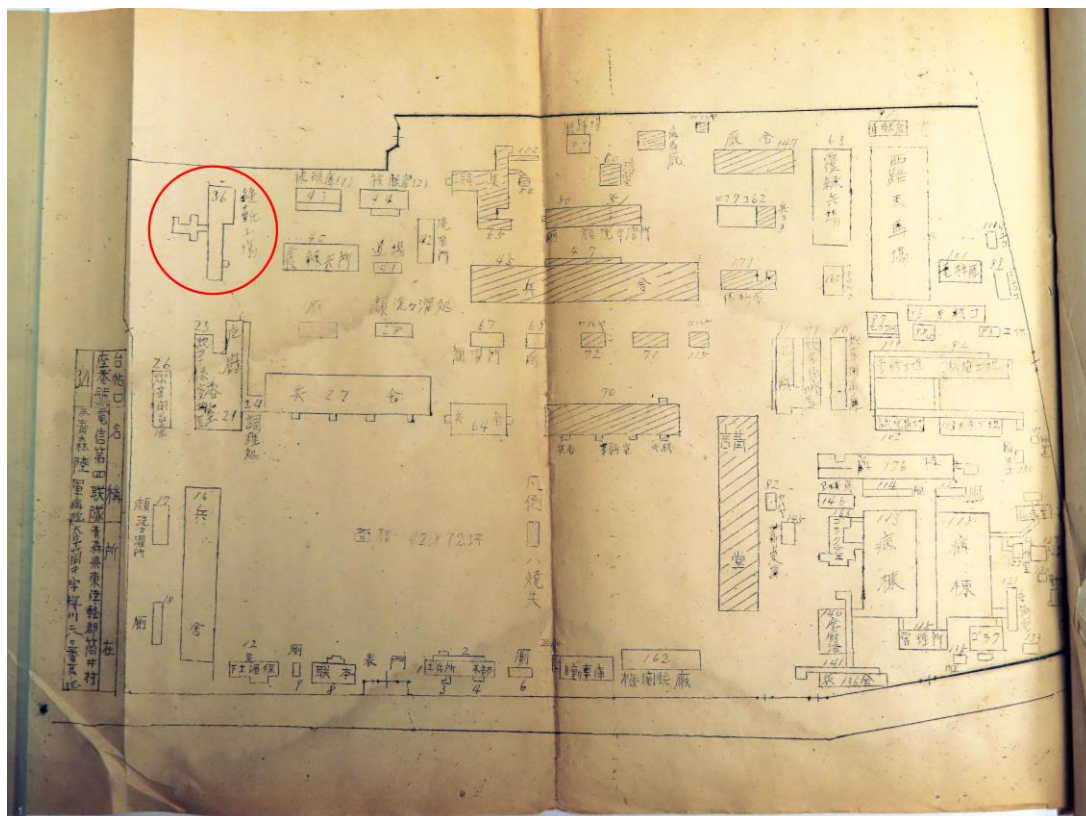
こんにちは。歴史資料室の村上亜弥です。

本日より歴史資料室の新しい企画展示「戦後復興と新しい教育Ⅱ」が始まりました(展示期間は8月24日まで)。毎年、歴史資料室では7月から8月にかけて「平和」をテーマとした企画展示を行っており、今回の展示は平成28年(2016)の企画展示「戦後復興と新しい教育」の内容をさらに発展させたものとなっています。

図書館7階の展示ケースでは、昭和22年(1947)に発足した新制中学校の校舎建設の事例として高田中学校と荒川中学校を取り上げ、関連する資料を展示しています。今回、この二校を取り上げたのは、旧軍用施設の払い下げを受けて校舎を建設したという共通点があったからです。

昭和22年、高田村は高田中学校と中野坂中学校を、荒川村は荒川中学校と金浜中学校を開校しました(中野坂中学校は野沢地区にありました)。これらの中学校は独立校舎を持たず、小学校に併置されたため、教室不足が問題となりました。そこで、高田村と荒川村は筒井村の旧歩兵第五連隊の敷地内にあった建物の払い下げを受け、新しい中学校校舎を建設することにしました。

高田中学校の『創立三十周年記念誌 学窓三十年』(1977年)をみると、昭和23年11月に完成した校舎は「旧歩兵第五連隊の馬糧廠を安く払い下げたもの」とあります。一方、荒川中学校の『三十周年記念誌』(1977年)には昭和24年3月に「元歩兵第五連隊縫製工場及附属建物の古材を利用した校舎」が竣工したとあります。歴史資料室が所蔵する資料によると、高田村が払い下げを受けた建物は「電柱庫」と「糧^{りょうまつ}秣庫」、荒川村が払い下げを受けた建物は「縫靴工場^{ほうか}」という名称だったようです。



電信第四聯隊及青森陸軍病院 (丸で囲んだ場所が縫靴工場)

さて、高田村では昭和 23 年 11 月に校舎が完成したことを受けて、高田中学校と中野坂中学校を統合し、新しい高田中学校を開校しました。その初代校長には中野坂中学校の中村政勝校長が就任しました(発令は昭和 24 年 2 月)。一方、荒川村も昭和 24 年 3 月に校舎が完成すると、荒川中学校と金浜中学校を統合し、新しい荒川中学校を開校しています。その初代校長には 3 月まで高田中学校の校長を務めていた中村政勝が就任しました。つまり、高田中学校と荒川中学校の初代校長は同じ人物だったのです。

なお、この時建設された校舎には特別教室や体育館がなく、冬には寒風や雪が入り込むなど設備が十分とはいえないものでしたが、廊下を講堂代わりに使用するなど工夫して使用したということです。



玄関を改造して設けた教室
(高田中学校、昭和 20 年代)



校舎と職員室を結ぶ渡り廊下
(高田中学校、昭和 20 年代)



廊下で卓球をする子どもたち
(高田中学校、昭和 20 年代)